



幼児のボール遊びに関する研究 ④

—ドリブルを基礎としたボール遊びについて—

岡 本 卓 夫

本研究の一、二、三の結果によって幼児達の自然の姿におけるボール遊びの様式や、身体支配技術、ルール等がどの様に行われているかという事が大體理解出来たので、それ等の研究と小学校低学年におけるボール遊びとを基礎にし、幼児達に望ましいと思うボール遊びを作製した。しかしそれがただちに幼児達に適切であるかどうかはまだ疑わしいので、その作製したボール遊びをもう一度幼稚園、保育所にもって行き幼児達に実施し、その結果適当なものを採用し不適当なものを除去しそれらのボール遊びを再構成して出来上ったものがこの報告である。

相当な数になるので今回は主としてドリブルを基礎としたものの中の代表的と思われるものについて報告する。

一般的傾向として手まり遊びは幼稚園や、保育所で教師が特別に指導しなくても、幼児達の家庭、近隣等自然の環境の中に行われている場合が多く主として女子の幼児達に愛好されている遊びであ

る。しかしそれを自然にまかせて置くというよりは教師達によってより教育的に指導することはその遊びをより価値あるものにするものである。この遊びは年令的には女子は四歳ぐらいから、男子では五歳ぐらいから指導するのが適切であろうと思う。そしてこれ等の遊びから幼児達が経験するのは、

- (一) ボールの良くハズムという性質を知るようになる。
 - (二) その場で上手につけるようになる。(立位、座位)
 - (三) 移動しながら自由につけるようになる。
 - (四) リズムにあわせてつけるようになる。
 - (五) 二人以上のお友達と仲良くつけるようになる。
- 以上の五項目が幼児たちの手まり遊びにおける経験内容の主軸になるであろう。次にその主なる遊びについて説明する。
- (一) 一人での手まり遊び

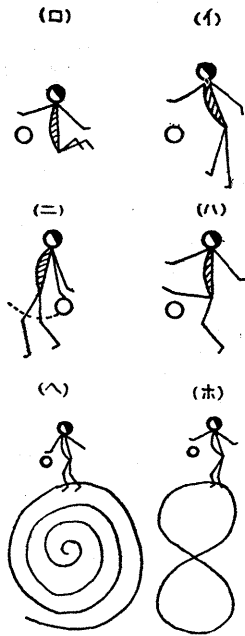
○準備 幼児用色彩ボール（大・中・小）。テニスボール。ピンポンボール等。

○遊びの目標

一人でボールをつき、数を数えたり、自分で歌を歌ったりしてそのリズムにあわせ、立ってついたり座ってついたり、脚の下や股の下をぐぐらせたり、自由に移動したり、円周上を回ったりして遊ぶ。

○留意点

1. 幼児が自由に選択出来るよう出来るだけ多くのボールを用意して置くこと。
2. ボールによく空気をを入れて置くこと。
3. 必要と思われる円やうず巻線等を準備して置くこと。



(二)代りましょう

○人数 二人

○準備 一グループにボール一コ

○遊びの目標

1. ボールをもったプレイヤーは持たないプレイヤーの周囲を回る。

2. ボールを持たないプレイヤーは真中に立って歌を歌ったり数を数えたりする。

○ルール

1. 一周して歌を歌い終ったり、数を数え終ったら二人は交代すること。

○留意点

1. じゃんけんで順番を決めさせる。
2. 小さく回らないよう直径二米位の円を書いて置くことよい。
3. オルガン、ピアノ等楽器で伴奏をしてやる。
4. 真中のプレイヤーに回っているプレイヤーを見ながら中で小さく回らせるようにする。



○人数 二人

○準備 一グループにボール一コ

○遊びの目標

1. ボールを持ったプレイヤーは手の鳴る方へボールをつけてゆ

く。

2. ボールを持たないプレイヤーは手をたたいて、ボールをついて
いる人の近くを自由に動き回る。

○ルール

一定時間ついたら二人は交代する。

○留意点

1. 広い場所ですること。
2. 二人の間をあまり離さないように指導する。
3. 「鬼さんこちら手の鳴る方へ……」等の歌を歌わせながらする
と非常によろこんでする。



(四) 仲良しさん

○人数 二人

○準備 一グループにボール一コ

○遊びの目標

二人で仲良く手をつなぎ右側になったプレイヤーがボールをつ
き、左側のもは歌を歌って二人で自由に移動して遊ぶ。

○ルール

1. 歌を歌い終わったら交代する。
2. 手を離さないこと。

○留意点

1. 幼児のきき手に注意すること。
2. 交代のとき位置をかえることに注意する。
3. 男女一組でやらせる方がよい。
4. 外でやらせて、鉄棒や雲梯の下をくぐらせたり木を回わせた
りするとよい。
5. 「仲良しさん」の歌を歌ってすると面白い。



(五) 真中の子

○人数 五人〜七人

○準備 一グループにボール一コ

直径一・五米のセンターサークル

○遊びの目標

1. 真中の子に選ばれたものはセンターサークルの中でボールをつ
く。

2. 他のプレイヤーは数を数えたり歌を歌う。それが終ると名前を
呼ばれることによって真中の子になる。

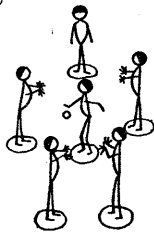
○ルール

1. 真中の子に選ばれたものは数や歌が終わったら一度ボールを保持
して円周上のものに渡す。

2. ボールを渡されたプレイヤーは出来るだけ早くセンターサークル内に入り真中の子は円周上の交代したものの位置にゆく。
3. サークル上のプレイヤーは手が届かない程度のサークルをつくる(手をつないでその位置から一歩さがらせるとよい)

○留意点

1. 出来るだけ平等に名前を呼ばすようにする。
2. 円周上のプレイヤーに拍手で拍子とらせる。
3. 楽器類で伴奏をしてやるとよい。
4. 円周上のプレイヤーの位置に小円を書かせるとよい。
5. ボールをつくるときセンターサークルには余りこだわり過ぎないよう。



(六) 回わりましよう

○人数 五人〜六人

○準備 一グループにボール一コ

○遊びの目標

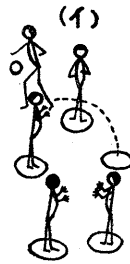
1. ボールを持ったプレイヤーはボールをついて円周プレイヤーの外側を一回回わって帰り次のプレイヤーに渡す。
2. 円周上のプレイヤーは拍手しながら歌を歌う。

○ルール

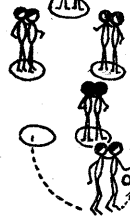
1. リーダーに依って最初ボールが与えられる。
2. 始めの合図で、ボールを与えられたプレイヤーは他のプレイヤーの外側を一回だけボールをついて回わって来る。
3. 終ったら自分の右(左)側のプレイヤーにボールを渡す。

○留意点

1. 各プレイヤーに自分の位置の小円をかかせる。
2. 渡すときに間違えないように注意してやる。
3. 人数の多いときは二人組にしてするとよい。
4. 楽器類で伴奏をしてやること。



(イ)



(七) 手まり送り

○人数 五人〜六人

○準備 一グループにボール一コ

○遊びの目標

1. ドリブラーになったものは規定の回数ついたら次の者に渡す。
 2. 他のプレイヤーは歌を歌ったり数を数えて自分の番を待つ。
- ルール
1. リーダーによって選ばれた最初のプレイヤーは「始め」の合図

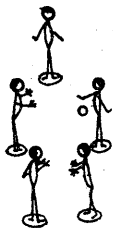
でボールをつく。

2. きめられた数、あるいは時間が終わったら右(左)のプレイヤーに手で持ってボールを渡す。

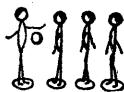
○留意点

1. 余分につかせないようにする。
2. 各プレイヤーの位置に小円をかかせる。
3. 対列とか色々の隊形が考えられる。

(イ)



(ロ)



(ハ) おおてつないで

○人数 八人〜十人

○準備 一グループにボール一コ 直径一・五米の円

○遊びの目標

一人のプレイヤーがサークルの真中に入って手まりをつき他のプレイヤーは連手してその周囲を回わって遊ぶ。

○ルール

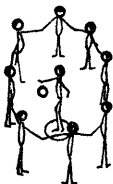
1. リーダーによって選ばれたプレイヤーはボールを持って真中に入る。
2. 歌を歌い出すと同時にセンタープレイヤーはボールをつき、他の者は連手して歌いながら右(左)に回わる。

3. 歌が終るとセンタープレイヤーと他のプレイヤーとが交代する。

○留意点

1. 交代のときは、自分の正面で止った人とか名前をいわせるとか好きな人とかと、代らせる。ただし出来るだけ平等に遊ばせるようにする。

2. 人数の多いときはセンタープレイヤーを二人ずつにさせてもよい。



以上ドリブルを基礎としたボール遊びについて説明したが、実施においては尚多少困難な場合とか、興味の点で不足なところも出てくると思うので、その場合は指導者の賢明な一策をお願いしたいと思います。

次回はホルディング(持つこと)を基礎としたボール遊びを報告します。 一以上

* * *